令和５年度第２回滋賀県職業能力開発審議会　概要

１　日時

令和５年７月２７日（木）14 時から 16 時まで

２　場所

大津合同庁舎７-Ｄ会議室

３　出席委員

佐藤、田邉、丸本、山本、中野、和田孝、山田、池内、齋藤、菱田、西林、沼井の各委員

（敬称略、出席 12 名）

４　事務局

労働雇用政策課長　他３名

５　オブザーバー

県立高等技術専門校校長

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター所長

６　議事概要

高等技術専門校のあり方検討答申素案について

資料１～２および参考資料１～９により説明

【主な意見等】

議題１　高等技術専門校のあり方検討答申素案

委員
　インターンの受け入れが一番話が早い。ものづくりの会社はどこも人材不足である。ものづくり加工科の就職率が悪いのが気になる。ものづくりの根底には必ず金属加工が入ってくるので、就職率が悪いのは考えにくい。専門校特有の理由があるのか。

事務局
　ものづくり加工科は現在入校している人数が少ないので、一人あたりの影響が大きい。

委員
　母数の影響が大きいということか。

事務局
　おっしゃるとおりである。

委員
　質のレベルの分析はしているのか。

事務局
　５年間の平均の数字を提示しているので、一概にこれが原因だということはできないが、年齢が比較的高い場合や個々の事情もある。

委員
　ものづくり加工科やものづくり金属科はどんなことをやっているのか内容のイメージが湧かない。

事務局
　ものづくり加工科は機械加工を中心に溶接の訓練を加えたような訓練内容になっている。ものづくり金属科については、溶接を中心に機械加工の訓練を加えたような訓練内容となっている。どちらも金属加工の訓練を実施している。

事務局
　委員ご指摘のとおり現在の訓練科名については、外から見たときに訓練内容がわかりにくい。今後再編の中で新たな学科を作る際には、何を学ぶのか、どういった形で就職に結びつけることができるのかといったことを求職者の方にわかるような学科名にしていくことが必要ではないかと考えている。

委員
　ものづくりと言えば、金属加工はなくてはならないものだが、一般の方ではそういった認識が薄い。ものづくりとは何かといった説明のアプローチも必要ではないか。

委員
　ものづくりのイメージが明確になるようにしてほしい。

委員
　昔は旋盤や溶接等もっとストレートな表現だった。日本の技術者の社会的地位がヨーロッパ等と比べて低い。企業でも大手では開発は正規職員を雇っているが、現場は派遣労働者が多いのではないか。中小企業は人材不足で困っているが応募者がなかなかこない。

委員
　大手企業は１つの製品を大量に作るのでコストダウンの関係で金属加工の部分は派遣労働者の方に任せている部分も多いと思うが、中小企業は、お客様のニーズに合わせて開発したりするので、金属加工の精度の高さが非常に重要である。どれだけ精度の高い金属加工ができるかがその企業のステータスになる。金属加工はきつい、汚いというイメージを持たれているが、最先端の仕事はプログラマーである。従来の仕事もあるが、だんだんと仕事内容も変化してきている。

委員
　連携に関して言えば、学校間での授業の公開やりとりや実験設備がそこの学校にしかないというケースもあると思うので、現場の体感ができるというのもメリットの一つであると考えられる。県での連携を明確にすることが大事であると考える。現在の学生は企業名だけで就職先を決めている。キャリア支援の徹底が重要ではないかと考える。

委員
　企業でも職場見学会を開いているが中々思ったような人数は来ないが、仕事を肌で感じてもらえるチャンスであると考えている。

委員
　現役の学生は職場見学等のイベントを開いても、行ってみたらどうかという提案ではなかなか行かない。企業訪問を強制させるぐらいでないと行かない。

委員
　訓練内容の設定の情報処理分野（ＩＣＴ技術科）に関して、他の分野と比較すると表現がさびしい。求められている人材を書いた方が良い。

委員

普通課程の募集要項は非常にわかりやすい。建築分野に関しても建築士の受験資格が取れることをもっとアピールした方が良い。

事務局

求職者向けのチラシにも受験資格取得の点等はアピールできるように検討していきたい。

委員

現在の学生はタブレットやスマホ等のツールには良く精通しているので、むしろ加工の内容や材料等の基本的な知識が必要になってくるので時間はしっかりかけるべきである。人材不足の中で在職者訓練が今まさに社会に必要とされていると考えている。人材不足の社会であるので、入校生がある程度減ってしまうのは仕方がないが、予算等が縮小してしまうとセフティーネットの機能を果たすことができなくなってしまうので、その分在職者訓練の内容を充実することも考えてはどうか。

委員

新しい機器等を導入するためにもきちんと予算措置をしてほしい。業界団体とももっと連携すべきである。企業の社長等に講義をしてもらってはどうか。また専門校でも無料職業紹介をやっていくべきではないかと考える。セフティーネットとしての前提もあるので、２校舎の体制でぜひ進めていってほしい。

事務局

無料職業紹介は現在就職支援アドバイザーも設置して専門校で行っている。

委員

障害者対象の訓練は対象を知的障害の方に限定しているのか。

事務局

総合実務科に関しては、知的障害の方に対象を限定している。身体に障害を持っておられる方は一般の訓練を受けてもらっている。

委員

訓練で作成したものを県民に披露するような場が必要ではないか。過去に実施していたことがあったと思うので復活してほしい。そのための予算措置も重要である。

委員

ものづくりそのもののアピールの場が重要であると思う。

事務局
　県庁内にも展示できるスペースがあるので、そういったスペースも活用できるよう検討していきたい。

委員
　滋賀県としてどこまで想いを込めているかによって変わってくると思う。

委員
　展示する場所に関しても、誰に見てほしいのか対象を考えることも重要だと考える。男女共同参画センターやＧネットフェスタ等の県庁内の組織やイベントで連携してＰＲしていくべきではないか。

事務局
　お客様が来ていただけるところでＰＲできるよう庁内で検討できないか考えていきたい。

委員
　職業安定所や県のホームページで動画を流したりすることで高等技術専門校があることをＰＲすることが重要である。小・中・高の時に専門校を知る機会を作ることが重要。

事務局
　今までもハローワークでの初回説明会やものづくり体験教室等で小学生にアピールを行っている。

委員
　大学や専門学校みたいにＩＣＴ技術科のカリキュラムを全訓練科に数時間だけ導入したりできないのか。

事務局
　離転職者対象の訓練に関しては、情報リテラシーという形で情報系の知識を学んでいただくことや一部プログラミングのような内容を 30 時間程度カリキュラムに組み入れられないか検討している。

委員
　ものづくりとひとづくりの連動が重要である。ものづくりは学校と企業との結びつきでもある。この点で何か工夫ができれば良い。

委員
　自分自身のことをわかっていない人も多く、ものづくりには感性も必要であるので、その人に向いているかどうかアドバイスできるような人が必要ではないか。

委員

学生も多様であり、教師だけでは支援しきれない部分もある。専門校にカウンセラーはいるのか。

事務局

就職支援アドバイザーを設置し、就職支援をする際に一人一人面談を行い、一人につき年３回程度は行うようにしている。

委員

就職後の定着支援はどうか。

事務局

コロナ前は企業訪問を行い、定着支援に力を入れていたが、コロナ禍で近年は企業訪問に行けていなかった。これから定着支援は力を入れていきたい。

委員

専門校の認知度について、企業向けにアンケートを取られていると思うが、入校生の対象になる方がどれだけ知っているかが重要ではないかと考える。職業の選択肢が広くなっている中では、機械加工はきつい、汚いというイメージがまだ残っている。また給与水準が低い部分もある。給与水準も上げていける雰囲気にはなってきているが、一足飛びには進まない。ものづくり分野の業界の魅力や知名度を上げていくことが重要である。

委員

人付き合いや営業が苦手だが、性格は真面目である方が、金属加工ではエース級になるような方もおり、活躍できる場があるという現状は知ってほしい。

委員

広報で苦労しているのが明らかである。答申で広報の重要性についても一文入れるべきではないか。また、就職後の定着サポートも魅力になるのではないか。加えて、米原に拠点があることを発信していっても良いのではないか。なぜ専門校は米原と草津に設置されているのか。

事務局

ある程度の推測にはなるが、過去に長浜と彦根に職業訓練校があり、その中間地点であったことや交通の要所であったことから米原に設置されている。草津校に関しても、過去に石山と高島に職業訓練校があり、それを集約する形で設置することとなった。

委員

今回の高等技術専門校のあり方検討答申素案について、委員の皆様の意見と概ね齟齬がないと判断してよいか。

委員一同

　異議なし

以上